

クリニックレター 2019年6月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

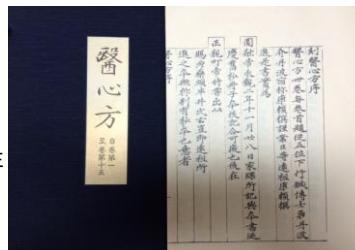
TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP:<http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

日本の漢方医学の始まりは丹波さんのご先祖

私は昭和30年(1955年)生まれですので、当然ながら(?)、テレビ(TV)世代です。TVに関する最初の記憶は、東京オリンピックの開会式の日(5月25日)に学校が午前中で終わり、急いで家へ帰って開会式を見たこと、土曜の夜遅くに「夢で逢いましょう」を見たことなどでしょうか。今調べてみたら、「夢で・・・」は1961年4月から1966年4月まで毎週土曜日22時台に生放送された、とありますので、土曜の夜はちょっとだけ夜更かしをさせてもらっていたのでしょう。しかし、当時、評論家の大宅壮一氏が、「TVによって一億総白痴化する」と言ったと伝えられています。確かに、最近の、特に地上波の番組で、タレントと称する芸人さんたちがひな壇に座って馬鹿笑いをしているのを見ると(気分が悪いので見ませんが)、大宅氏の予言はあたっていたのかな、とも思いますし、「白痴化」させようとするなにかの意思が裏ではたらいっているようにも感じます。なぜ、こんなことを書き出したかということ、「丹波哲郎」からの連想なのです。といっても何のことかお分かりにならないと思いますが、これを書いている今日(5月26日)は一日自宅で、講演や講義の準備をする日に当たっていて、このあと、再来週の神戸大学での講義スライドをまとめる作業を予定しています。講義の中で、「漢方の歴史」について語る部分があるのですが、「日本最初の総合医学書」とされているのが、平安時代の984年に作られた「医心方(イシンポウ)」です。これを編纂したのが、当時、宮中医官であった「丹波康頼」という人で、丹波家はその後も代々日本を代表する医家として続いたのですが、あの“大聖界”で有名な丹波哲郎さんは、この丹波康頼の末裔だそう。・・・というようになくすぐりで“ほおっ・・・”という雰囲気があったのは、10年以上前まで、今の学生に、丹波哲郎って言うても全く何の反応もありません。(当たり前といえば当たり前ですが・・・)

では、漢方の本場である中国では、この時代はどうだったかということ、漢方の三大古典と言われる「黄帝内経(コウテイノウキイ)」「神農本草経(シンノウホクゾウキョウ)」「傷寒雑病論(シウカザクボウリン)」が書かれたのは、紀元前3世紀ごろから紀元3世紀ごろで、960年からの宋王朝時代には、医学教育を行う太医署(タイイシヨ)や、医薬行政をとりしきる翰林医官院(カリンイカンイン)、医学書編集の専門機関である校正医書局(コウセイイシヨク)などの国家的プロジェクトができあがった時代でもあります。一方、日本でこのような組織が出来たのは、それより900年近くものち、明治になってからですね。ちなみに右の写真は、昭和48年に作られた医心方の復刻版で、私の父が生前に買い求めたものです。医心方が作られた後も、



日本の医学には大きな発展はなく、鎌倉時代になって一部の僧たちが民衆に医療を施していたという記録がある程度でしたが、室町後期になり、ようやく、遣明船で中国に渡った田代三喜(タシキ)が、当時の最も進んだ中国の医学を日本に持ち帰り、それを受け継いだ曲直瀬道三(マドノミチ) : 1507-1594)が、今の日本漢方の基礎を築くことになるのです。

*実は私はお笑い大好きです。落語だと、故人では、10代目金原亭馬生、立川談志、先代春風亭柳朝、3代目春団治、露の五郎師匠、現役では、柳家喬太郎、立川志の輔、桂雀三郎、色物では、ナイツ、のいるこいる、先代林家正楽(紙切)が最良。もちろん、昭和の音曲漫才(宮川左近シヨウ、チャッキリ娘など)やしゃべくり漫才(人生幸朗生恵幸子、初代サブローシロー)なんて最高です！ そいうえばホラ吹き漫才の横山たかし師匠がお亡くなりになりましたね。「すまんのう！」好きやったな～～。

スギ花粉症に対する舌下免疫療法がより簡便になりました

先月号でも書きましたが、当院でスギ花粉症に対する舌下免疫療法を取り入れてから、3年が経過し、スギ花粉が猛威をふるった今年、治療を続けられていた全員が、ほとんどこれといった症状も出ずにすごされました。昨年からは、これまでの液体を滴下する治療法から、錠剤を1分間、舌下に保持する方法になり、より簡便に治療を継続することができるようになっています。舌下免疫療法は、スギ花粉がおさまった6月以降に開始する必要があります。当院でも6月から8月からの開始をお勧めしていますので、関心をお持ちの方は、どうぞご相談ください。

知っておくと役に立つ“経穴(ツボ)”の知識(13)

-臈中(ダンチュウ) -

名称の由来:「臈」とは心臓下の隔膜のことで、心臓を守ると言う意味がある。

部位:左右の乳頭を結んだ線と胸骨正中線との交叉する部位。(両乳を結んだ線の真ん中)

働き:のぼせて息苦しい時、激しい咳、動悸、息切れ、喘鳴など、呼吸器系の症状や、神経症、気うつなどに、このツボを指圧したり、施灸するとよい。

玄関開錠時間について

クリニックの玄関は午前8:30より、午後14:05(月金) 15:05(火木)に開錠しています。

休診のお知らせ

6月28日(金) 午後・29日(土) 8月3日(王)の院長外来を休診とさせていただきます。8月15日(木)は院長・武内医師とも休診させていただきます。

お車で来院される患者様へ

歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及び、クリニック周辺の道路には、絶対に駐車されないようにお願いします。駐車場で長時間のアイドリングもお控えください。

クリニックレターのバックナンバーはクリニックホームページでご覧いただけます。